

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

#### 円高祭りは連休中だけ？ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室  
カスタマーディーラー 田中春菜

来週のドル円予想レンジ **103.50 ~ 105.50**

### りそなWEEKLY COLUMN

#### 米国大統領選の仕組み (P3)

りそなホールディングス 市場企画部  
ストラテジスト 広兼 千晶

- **いよいよ大統領選も後半戦に突入**
- **11月3日の本選挙に向け、今一度選挙制度の仕組みを確認したい**

2020/9/23

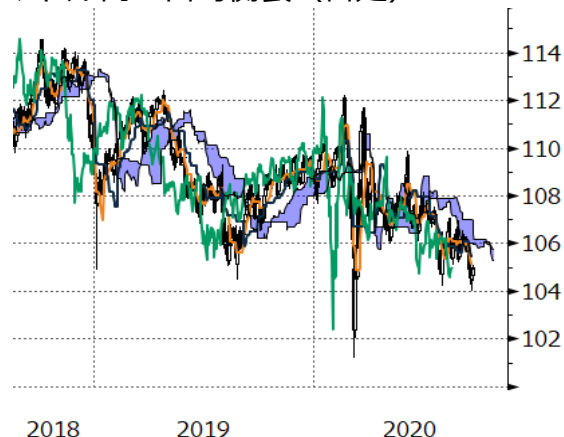
# りそな外為レポート

## 円高祭りは連休中だけ？

今週のドル円予想レンジ **103.50 ~ 105.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表（日足）



### ◆為替相場のすすめ

先週は、ドル売り圧力がじわじわと円に向かい始めた。16日に開催された米FOMCでは、最大雇用の実現とインフレ率2%の平均目標達成まで長期にわたりゼロ金利政策を据え置く方針が示され、ドル売り圧力が徐々に強まった。ドル売りの受け皿となっていたユーロドルは、ECB高官によるユーロ高の牽制や、欧州圏でのコロナウイルス感染再拡大等が重しとなり、リスクオフの流れを織り込んで円が買い優勢となった。今週の相場は、一旦過度な円高は回避できるものと予想。足元では、パウエル米FRB議長とムニューシン米財務長官が、「米国の経済回復について予想を上回っている」と発言し、ドル売り圧力が和らいでいる。しかし「（米国の経済は）コロナウイルス危機前の水準を下回っているため、追加経済救策が必要」という見解も合わせて示しており、今後良好な米経済指標が続いたとしても引き続き米国の緩和継続が長期にわたる事が予想される。米株をはじめとするリスク資産を睨みながらの展開となると思われるが、当面のドル円のレンジは、一段引き下がった事には間違いないだろう。（カスタマーディーラー 田中春菜）

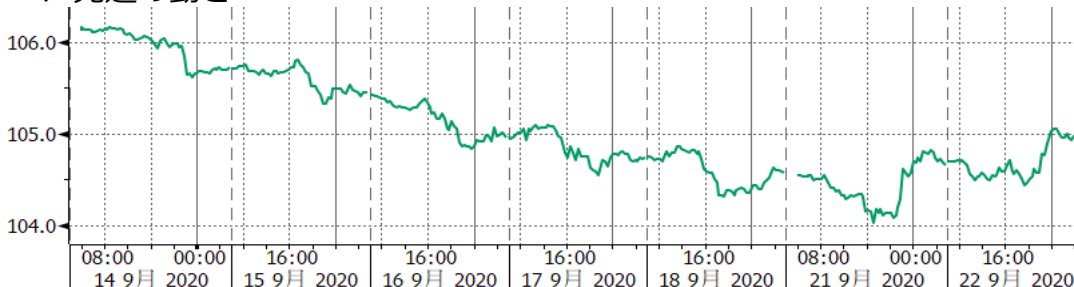
### ◆今週の日程

22日 (火) 米 8月中古住宅販売	24日 (木) 独 9月IFO景況感指数
22日 (火) 米 2年国債入札	24日 (木) 米 8月新築住宅販売
23日 (水) 欧 9月PMI	24日 (木) 米 7年国債入札
23日 (水) 米 5年国債入札	25日 (金) 米 8月耐久財受注

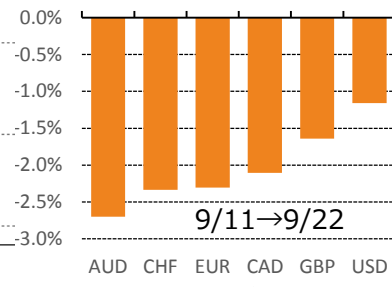
◆今週の予想（ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓） NY引け値 9月22日（火）104.93円 VS 9月25日（金）

東京					大阪				埼玉						
井口	中根	湊	小新	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	佐藤
↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↓	↑	↓	↓	↑	↑	↓	↑

### ◆先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/9/23

# りそな WEEKLY COLUMN

## 米国大統領選の仕組み

- いよいよ大統領選も後半戦に突入
- 11月3日の本選挙に向け、今一度選挙制度の仕組みを確認したい

りそなホールディングス 市場企画部  
ストラテジスト 広兼 千晶

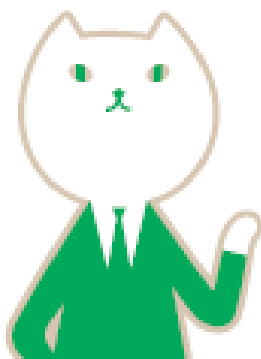
### 日本の首相交代の次は米国大統領選

日本では先週菅氏が新首相に選出された。8年近く日本のリーダーであった安倍前首相は、アベノミクスを推進し、持ち前の外交力で手腕を発揮した。特にアメリカのトランプ大統領との関係は極めて良好であり、日米関係はこの間強固なものとなった。そのトランプ大統領だが、間もなく4年の任期を迎えようとしている。本コラムでは、米大統領選挙がどのように行われるのか、選挙制度の観点から今一度確認しておきたい。

### 米国大統領選の仕組み

まず大統領選の日程だが、4年ごとの「11月の第1月曜日の翌日の火曜日」と定められており、今年は11月3日。この日に「一般投票」が行われる。ただし、全てのアメリカ国民が投票できるわけではない。住民基本台帳のないアメリカでは、投票をするにあたって事前に有権者登録を自己申告にてしなければならないからである。

「一般投票」で投じられた票は、12月に行われる「選挙人投票」にてその大統領・副大統領への投票を誓約する選挙人候補団への投票となる。アメリカの大統領選で特徴的なのがこの「選挙人」の存在である。各州の人口に応じて選挙人が割り当てられており、最終的に538人いる選挙人のうち、270人を獲得できれば勝利となる。メイン州とネブラスカ州以外の州では、一般投票で得票数の多い候補がその州の選挙人を総取りできる仕組みとなっているため、全体で見ると必ずしも一般投票での得票数の多い候補者が大統領になれるとは限らない。逆に言えば、選挙人の多い州で一般投票が僅差でも勝利となれば、全体の獲得票数が負けていても、勝利することができるのである。





2020/9/23

# りそな WEEKLY COLUMN

## 大統領選を決する「スウィングステート」の動向



アメリカは2大政党制であり、主な政党は「共和党」と「民主党」。今回の大統領候補は共和党が現職のトランプ大統領とペンス副大統領、民主党はオバマ政権で副大統領を務めたバイデン氏と、副大統領候補には初の黒人・アジア系の女性候補となるカマラ・ハリス氏。トランプ政権となつてからは特に共和党は白人や労働者、保守的なキリスト教徒が多く支持し、民主党はリベラルな思想を持つ富裕層が多く支持する傾向がある。

各州によって伝統的に共和党支持者が多い州、民主党支持者が多い州というのがあり、それらの州ではよほどのことがない限り支持政党が変わることはない。よつて選挙戦で重要なのは「スウィングステート（揺れる州）」と呼ばれる、共和党と民主党が拮抗している州をいかに獲得するかである。これは先ほど説明した通り、僅差であっても勝者総取り方式で、その州の選挙人を全て獲得できるからである。特に選挙人の多いフロリダ州（選挙人29人）やオハイオ州（同18人）などのスウィングステートは、両候補とも絶対に落とすたくない州と言える。

## 話題を集めている郵便投票

最後に今回の選挙でにわかに話題を集めているのは、郵便投票である。新型コロナウイルスの感染拡大で投票所に行かずに郵送により投票を済ませるという有権者は、民主党支持者を中心に増える可能性がある。また郵便投票が可能になれば民主党の支持層である若者の投票率が上がり、民主党に優位になる可能性が高くなるとされている。従つて、トランプ大統領は「不正が起きる」と郵便投票に警戒的である。郵便投票は地道な人手による作業であり、開票に混乱をきたす可能性がある。今後のリスクとして、トランプ大統領が敗北しても、郵便投票の不正を理由に選挙結果を受け入れず、泥沼化する可能性がある。そうなれば、マーケットも大混乱に陥るだろう。

## 今後は支持率に注目

本選挙まで残り1か月ちょっととなった。今後を占ううえで、支持率の動向や、賭けサイトの動向が参考となる。足もと黒人差別問題から国内の治安が不安定化する中、皮肉なことに強硬姿勢を取るトランプ大統領の支持率が上向きとなっている。今月末からはトランプ大統領とバイデン氏が直接討論する機会も出てくるため、支持率に大きな影響があろう。日本もリーダーが変わり、今後の日米関係も次期大統領が誰になるかで大きく変わってくる。11月3日の米国大統領選まではアメリカから目が離せない。